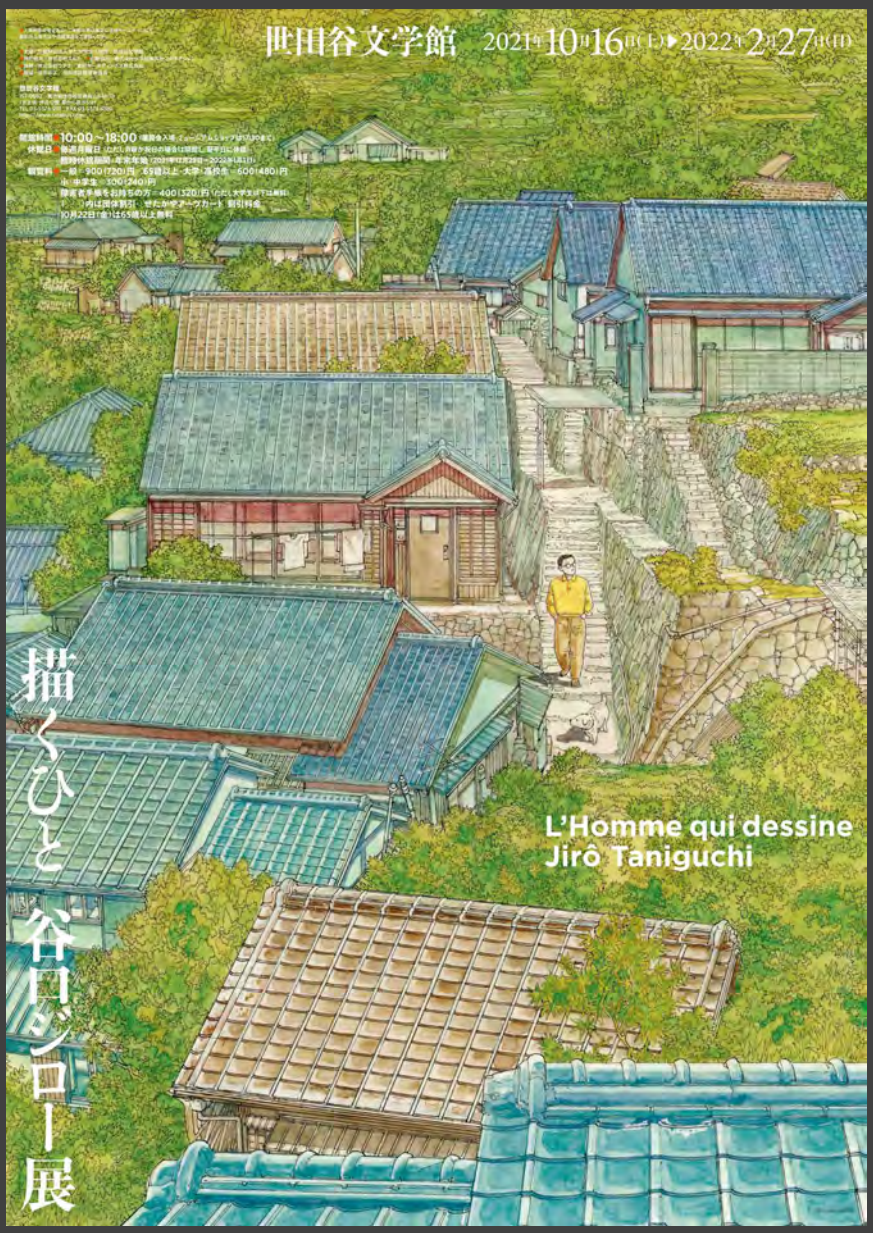
描くひと　谷口ジロー展

2021年10月16日［土］～2022年2月27日［日］



画像７　メインビジュアル

広報に関するお問合せ： 世田谷文学館学芸部　佐野、宮崎

〒157-0062 東京都世田谷区南烏山 1-10-10 TEL: 03-5374-9111 / FAX: 03-5374-9120

概要　描くひと　谷口ジロー展

日本はもとより海外でも多くの読者を持つ漫画家・谷口ジロー(1947-2017)の作品世界を、貴重な自筆原画約300点などでご紹介する大規模個展です。

緻密な作画、構成によって描き出されるその作品は、谷口ならではの世界、時空間に読者を惹きこむ力に満ち、深い読後感を残すことでも知られています。海外では大人の読者に堪える芸術として高い評価を受け、フランスのルーヴル美術館からもオリジナル作品を委嘱されています。

世界で認められる日本のマンガ文化の中でも、その成熟を象徴する存在として挙げられる谷口ジロー作品の魅力を是非ご堪能ください。

【展覧会名】　描くひと　谷口ジロー展
【会　　期】　2021年10月16日(土)～2022年2月27日(日)　混雑時入場制限あり
ご来館の際は、事前に当館ホームページにて最新情報をご確認ください
【会　　場】　世田谷文学館　２階展示室
東京都世田谷区南烏山１-１０-１０　℡ 03(5374)9111　https://www.setabun.or.jp/
【開館時間】　10:00～18:00（展覧会入場、ミュージアムショップの営業は17:30まで）
【料　　金】　一般 900（720）円／65歳以上・大学・高校生 600（480）円／
小・中学生 300（240）円／障害者手帳をお持ちの方400（320）円（但、大学生以下は無料）
※（　　）内は団体割引と「せたがやアーツカード」割引料金
※10月22日（金）は65歳以上無料
【休 館 日】　毎週月曜日（但、月曜が祝日の場合は開館し、翌平日に休館）・臨時休館期間
・年末年始（2021年12月29日～2022年1月3日）
【交通案内】　京王線「芦花公園」駅南口より徒歩5分
小田急線「千歳船橋」駅より京王バス（千歳烏山駅行）利用、「芦花恒春園」下車徒歩5分
【主　　催】　公益財団法人せたがや文化財団　世田谷文学館
【特別協力】　株式会社ふらり、一般財団法人パピエ
【企画協力】　株式会社小学館集英社プロダクション
【協　　賛】　株式会社ウテナ、東邦ホールディングス株式会社
【後　　援】　世田谷区、世田谷区教育委員会

【ご来館にあたってのお願い】
お客様に安心してご鑑賞いただくため、世田谷文学館は施設の換気や消毒、スタッフ全員の検温など感染症予防対策に取り組み開館しています。

●感染症対策のため、**混雑時は入場を制限**させていただきます。
●37.5℃以上の発熱がある方は入館をお断りします（入館時に検温させていただきます）。
●ご入場の際はマスクをご着用ください。
●過去２週間以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国・地域への訪問歴及び当該在住者との濃厚接触がある場合は、来館をお控えください。
●咳、咽頭痛等、風邪のような症状がある方、体調がすぐれない方はご来館をお控えください。
●感染症対策のため、お客様の個人情報を必要に応じて保健所等の公的機関に提供する場合がございます。
●クロークサービスはありません。大きなお荷物でのご入場はご遠慮ください（ベビーカー置き場はあり）。
●駐車場は利用台数が限られます。公共交通機関のご利用をお願いいたします。
●その他、注意事項の追加・更新がございますのでご来館前に必ず文学館HPをご確認ください

同時開催：開館２５周年記念　セタブン大コレクション展　PART Ⅰ　ふかくこの生を愛すべし
2021年10月16日（土）～2022年3月31日（木）

推薦文

谷口ジローの温顔と、その下に隠された静かな闘志は終生変わらなかった。自分の才能を磨く努力を怠らず、あらたな挑戦を恐れなかった彼は、マンガ家という天職を生ききった。

関川夏央（作家／『事件屋稼業』『「坊っちゃん」の時代』ほか共作者）

谷口先生に初めてお会いしたとき、まるで妖精のようなこんな素敵な人がいるのかと感動した憶えがある。お会いするたび、いたずらっ子のような きれいなまん丸い瞳をくるくるさせて、とても気さくにいろいろな話をしてくれた。
先生はきっと今も、天国で楽しそうに大好きな漫画を描き続けているのではないかと、時々 きらきらした丸い瞳を思い出しています。

松本大洋（漫画家）

だからいったでしょ、谷口ジローはもっともっと評価されなきゃいけないんだって！　日本の漫画家としてじゃなくて、世界の大人向け作家としてね。

夏目房之介（漫画批評家）

谷口さんの絵はリアリティーの中に気品がそそり立っていて、そこに実写で立ち向かうにはかなりの覚悟が要りました。細部に至るまで手が抜けない作業を自らに課すことになったのは、良い意味で谷口さんの呪縛に他なりません。

松重豊（俳優／テレビドラマ『孤独のグルメ』主演）

谷口ジローの凄いところは、これだけ優れた描き手であるのに、その死後、いまだにその追従者があらわれないということだ。模倣者すらあらわれない。だから、谷口ジローの座っていた椅子は、そのまんま、空いたままだ。それでいい。

夢枕 獏（作家／漫画版「餓狼伝」・漫画版『神々の山嶺』原作者）

まっすぐな瞳の佇まいが印象的でした。
先生は初対面の僕のような若手にも目を逸らさずじっくりと話を聞いて下さいました。
跳ねる光や葉の重なる音、激しい息遣いと鼓動まで伝わってくるような谷口作品の細やかな筆致の理由を見た様な思いがしました。いつまでも追いつけない、憧れの先生です。

坂本眞一（漫画家）

谷口ジローは、産業としてのマンガに付き物のさまざまな制約や約束から少しずつ解き放たれ、日本のマンガと世界のマンガの間を自由に行き来するようになりました。そうした作家は何人かいますが、彼はその中でも主だったひとりです。しかし、何より重要なのは、彼が現代において、最も普遍的で、読む者の心を強く揺さぶる作品を生み出した作者だということです。

ブノワ・ペータース（漫画原作者、小説家、批評家）

谷口ジローさんはとにかく丁寧な人で、新人編集者である僕の考えをいつも丁寧に聞いてくれていました。谷口さんの丁寧さや誠実さはマンガのストーリーだけでなく絵にも表れていて、僕はそれが好きです。マンガを読み直す度に、谷口さんの人柄のことを思い出します。

佐渡島庸平（編集者・経営者／株式会社コルク代表）

トピックス

著者初の本格選集「谷口ジローコレクション」の刊行
谷口ジローの代表作を、雑誌初出時と同じB5サイズで刊行するプロジェクト「谷口ジローコレクション」（第Ⅰ期全10巻／小学館・双葉社共同出版）が始動。
10月28日より、5か月にわたって毎月2冊ずつ刊行される。世田谷文学館では、第１回配本の『父の暦』と『「坊っちゃん」の時代』第１部を、10月16日より先行販売する。

●アニメ『神々の山嶺』が、 カンヌ映画祭で上映後（2021年7月10日　コンペティション外）、９月からフランスで上映予定。　https://www.festival-cannes.com/fr/infos-communiques/communique/articles/le-cinema-de-la-plage-2021
●漫画『K』（2021年7月刊行）、『猟犬探偵』（2021年11月刊行予定）を、ヤマケイ文庫・山と溪谷社より販売 。
https://www.yamakei.co.jp/products/2821049170.html

PRESS RELEASE SETABUN

描くひと　谷口ジロー展

展示構成

漫画家・谷口ジローの作品世界を 6 つの章でご紹介します。

プロローグ

1970年代から2010年代の代表作を一堂に展示。谷口作品の全貌をご覧ください。

第1章・漫画家への道のり

谷口ジロー（本名 谷口治郎）は、1947年8月14日生まれ。高校卒業まで鳥取県鳥取市で過ごし京都で就職しましたが、20歳の時に漫画家を目指して上京します。漫画雑誌「ガロ」、そして青年コミック誌が次々と創刊され、多くの漫画家が新たな表現に果敢にチャレンジしていた頃、谷口は動物漫画で知られる石川球太のアシスタントとして働きながら、デビューの機会を探っていました。
71年、『嗄(か)れた部屋』が「ヤングコミック」に掲載され、漫画誌デビューを果たします。その後、「昭和の絵師」とも呼ばれた上村一夫のアシスタントをつとめ、75年に『遠い声』で第14回ビッグコミック賞佳作に入選。この頃から、青年コミック誌に多くの作品を発表します。BD（ベーデー。フランスの漫画)と出会ったのもこの時期であり、メビウスをはじめとするヨーロッパの作家の作品から、さまざまな描写を吸収していきました 。
展示資料：『声にならない鳥のうた』、初期絵本など

第2章・70年代～80年代　共作者・原作者とともに時代の空気を描く

短編の劇画を精力的に発表していた谷口に、ある漫画雑誌の編集者は原作者との仕事を提案し、関川夏央を引き合わせます。同世代の2人は77年から共作を始め、数々の傑作を生み出していくことになります。79年に始まった「事件屋稼業」は、断続的に90年代半ばまで続くロングランになりました。80年には、やはり同世代の狩撫麻礼が原作を手がけた「青の戦士」がスタートします。
若き谷口ジローは、全盛期の青年コミック誌を舞台に、同世代の共作者・原作者そして編集者とともに、同世代の読者に向けて、新しい漫画のあり方を模索し続けました。絵にも変化が現れ、いわゆる劇画調の画風から、次第に谷口ジローならではの懐の深いものへと移行していきます。
展示資料：『事件屋稼業』、『青の戦士』、『マンハッタン・オプ』など

第3章・80年代　動物・自然をモチーフに拡がる表現

1982年､初のオリジナル長篇である｢ブランカ｣の連載を開始します｡戦闘兵器として遺伝子操作された軍用犬ブランカが､飼い主のいるニューヨークを目指し凍結したベーリング海峡を横断する物語です｡谷口は､人間の言葉を話さないブランカの内面を､眼や表情、緻密に描かれた過酷な自然で巧みに表しています。
1987年には、SF長編「地球氷解事紀」を発表します。未来の地球を舞台に「"人類と自然の進化"というテーマ」（谷口による「あとがき」より）に取り組み、空想上の生物やメカを、洗練された美しさと迫力で描き出しました。また、「K」（原作：遠崎史郎）では急峻な山岳の描写、岩壁を登攀する緊迫感が自然に挑む人間への容赦のない厳しさを伝えています。
生命の象徴としての動物、人間と動物の絆、自然への畏怖や敬意などは、谷口作品で繰り返されてきたテーマですが、この時期に育まれた多様な描写力がより幅広い読者に響いていきます。
展示資料：『ブランカ』、『地球氷解事紀』、『ENEMIGO』など

第4章 90年代　多彩な作品、これまでにない漫画に挑む

90年代、谷口は実に多彩な作品を次々と発表します。「歩くひと」（90～91年）は、セリフがほとんどなく、主人公の表情や風景で話の流れがつくられています。「犬を飼う」（91年）は、谷口が自らの飼い犬を看取った経験を基に描かれました。死にゆく愛犬から目を背けず、愛情をもって細やかに描写したこの作品は、92年に小学館漫画賞審査委員特別賞を受賞しました。「歩くという行為」や「愛犬の死」などのそれまで漫画にされにくかった題材に挑む一方で、谷口は「父の暦」（94年）、「遥かな町へ」（98年）を発表します。谷口の故郷である鳥取を舞台に、父と子、家族、時間といった普遍的な問いを込めたこの２つの作品は、十カ国語以上に翻訳され、国内外で多くの漫画賞を受賞。今日も版を重ね、各国の書店の店頭を飾るロングセラーとなっています。
また、87年から続いていた「『坊っちゃん』の時代」（共作：関川夏央）全５部が96年に完結し、日本漫画家協会賞、手塚治虫文化賞マンガ大賞を受賞します。「孤独のグルメ」（原作：久住昌之）の連載も94年にスタートしました。
展示資料：『歩くひと』、『犬を飼う』、『欅の木』、『孤独のグルメ』など

第5章 2000年代　高まる評価、深化する表現

95年に発売された「歩くひと」（フランス語版は、熱烈なファンを獲得しました。ついで「ブランカ」、「父の暦」、「遥かな町へ」などもフランスをはじめ各国で紹介され、「Jiro Taniguchi」は着実に愛読者を増やしていきました。海外での本格的な評価は2000年代に入ると一気に高まり、フランス、スペイン、イタリア、ドイツ、韓国他各国の漫画祭等で次々と賞を受賞します。
日本国内での創作としては、夢枕獏の小説「神々の山嶺」の漫画化に取り組みます。エベレスト初登攀の謎とクライマーたちの生き様を、圧倒的な山岳風景と迫真の登攀場面を交え壮大なスケールで描きあげ、国内外の賞を受けます。また、2009年には川上弘美の小説「センセイの鞄」を漫画化しました。原作者が「ツキコさんの部屋の構造が、自分でもよくわからないままに書いていたので、読んでから、そうかって（笑）」と感心するリアリティで新たな魅力を生み出します。原作に即しながら、谷口は漫画作品の表現を深化させていきます。
展示資料：『父の暦』、『センセイの鞄』、『遥かな町へ』、『神々の山嶺』など

第6章 2010年代　自由な眼、巧みな手。さらに新しい一歩を

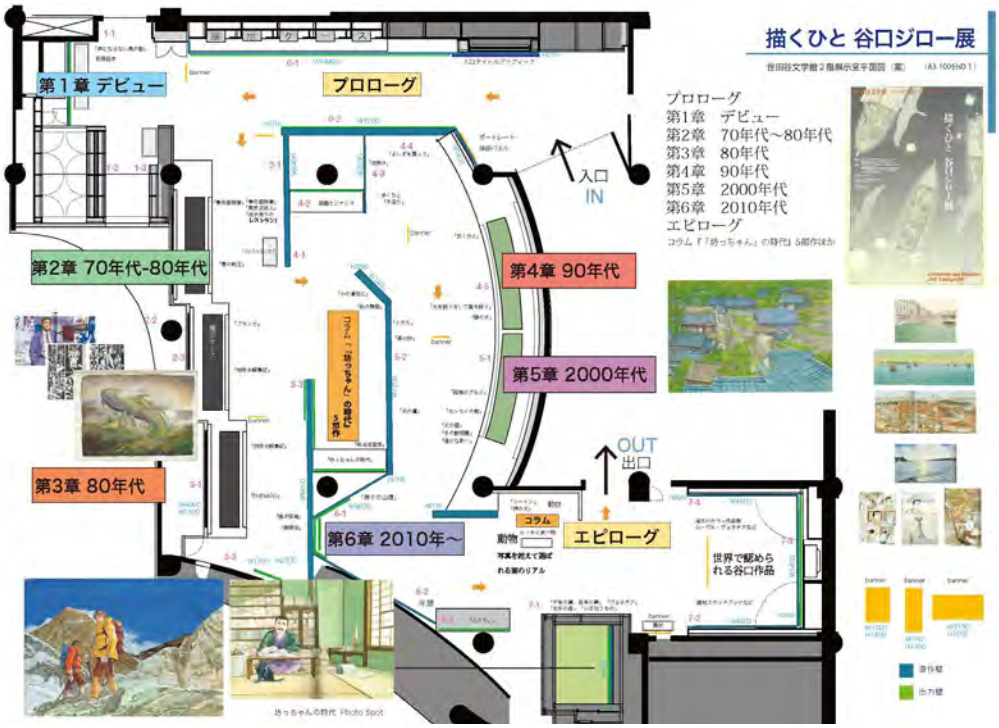
2010年には､｢ふらり。｣の連載を開始します。伊能忠敬をモデルにした主人公が江戸の町を散策する､｢歩くひと｣の江戸時代版ともいえる作品です。ここでも、谷口は新たな描写を模索します。木版画のような絵を目指し｢(雲のスクリーントーン処理について)いつものようにしないでくれ｣とアシスタントに指示を出したと言います。また、蟻や鳶などの目線を借りて江戸の情景を眺める試みも取り入れられ、主人公の好奇心と想像力の広がりを重層的に伝えています。
また、2010年代から谷口作品の映像化が増えていきます。「遥かな町へ」が欧州4ヵ国の共同制作で実写映画化（2010年、監督：サム・ガルバルスキ）、「晴れゆく空」がテレビドラマ化（2017年）されるなど、ストーリーテラーとしての谷口も評価を高めていきます。日本でも「孤独のグルメ」（2012年～）、「事件屋稼業」（2013年）がテレビドラマ化。そして、中国では「孤独のグルメ」が舞台化（2018年）、フランスでは「神々の山嶺」がアニメ化され、2021年秋に公開が始まりました。
展示資料：『ふらり。』、『何処にか』など

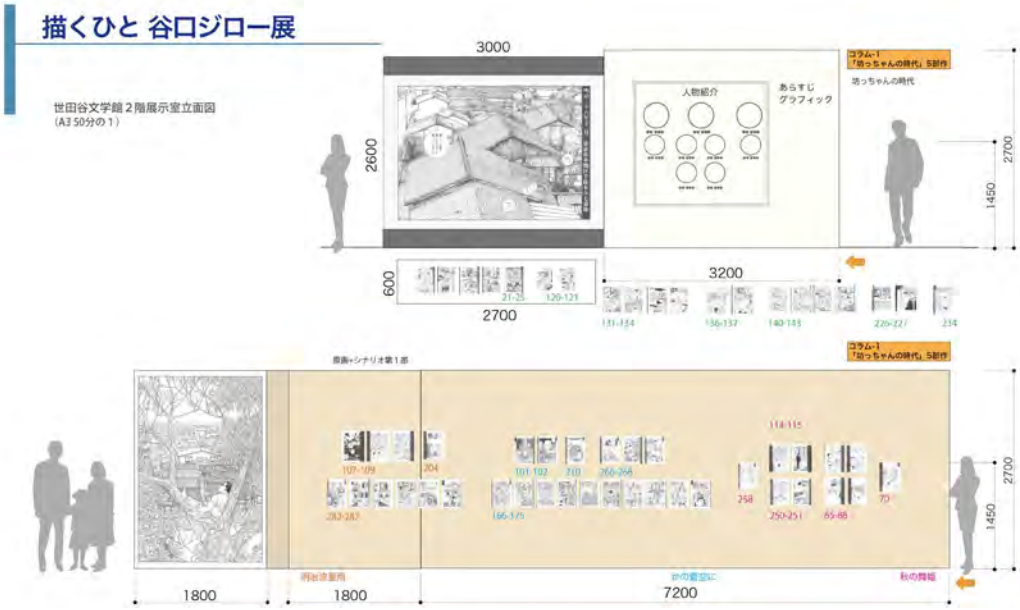
エピローグ　最期まで「描くひと」として

長年温めていた構想を元に、闘病期間中に描き始めた「光年の森」は、全5章のうち1章のみ完成しました。森の神秘と無限の可能性を秘めた子供というモチーフを、水彩で瑞々しく描き出されています。内田百閒の短編集「冥土」の中の「花火」を原作とした「いざなうもの　その壱　花火」も病を得てから描き始めた作品です。擦筆と薄墨で仕上げていますが、完成原稿はおよそ20ページです。いずれも未完の作品ですが、「何でも漫画にしてみたい」と語った谷口ジローの目指す新しい展開を示す独特な強さを湛えています。
展示資料：『光年の森』、『いざなうもの　花火』など

その他『「坊っちゃん」の時代』5部作を紹介するなど、多数の特設コーナーを設置します

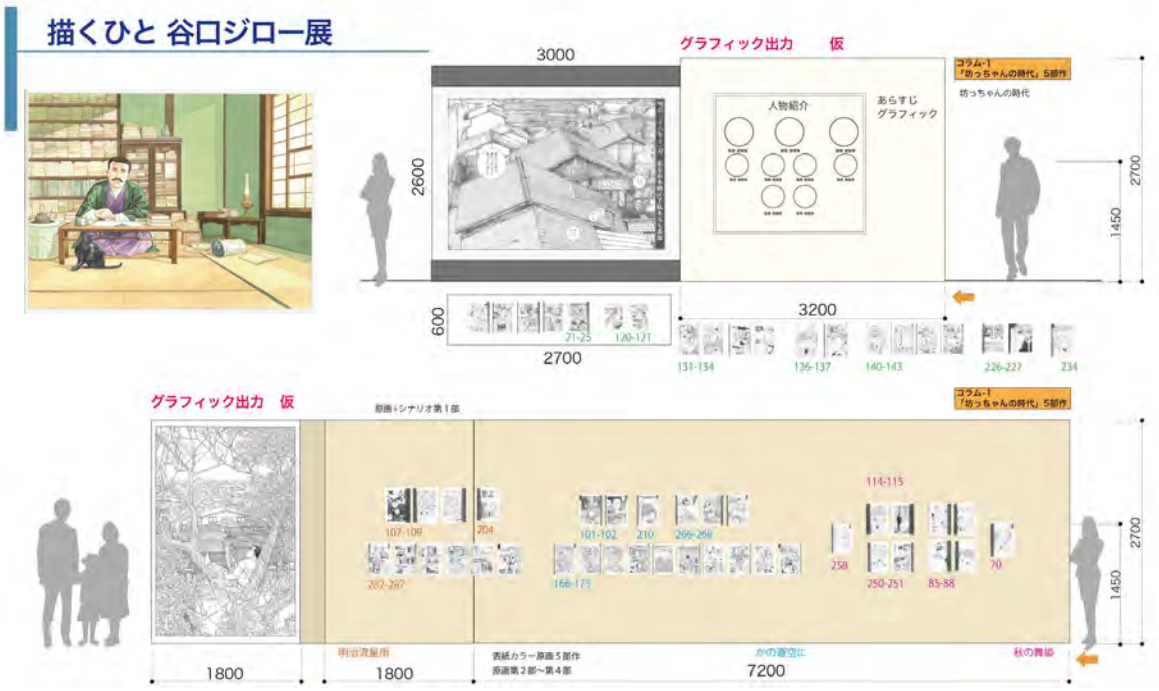
展示空間イメージ　**描くひと　谷口ジロー展**





展示空間イメージ　上・会場平面図（案）　下・立面図（案）

特設コーナー・コラム『「坊っちゃん」の時代』5部作



展示空間イメージ　立面図（案）

栄光と暗黒がともにある明治、現代の原点たる明治を造型するにあたってそれぞれの物語の主人公として設定したのが、たしかに遠くなりはしたが百年その名を忘れられずにいる文人たち、漱石（第一部『「坊っちゃん」の時代』）、鷗外（第二部『秋の舞姫』）、啄木（第三部『かの蒼空に』）、秋水（第四部『明治流星雨』）、そして再び漱石（第五部『不機嫌亭漱石』）である。

関川夏央『「坊っちゃん」の時代』完結、第五部あとがき、1997年

コラム・『「坊っちゃん」の時代』5部作

本作で文人たちは、創作活動だけに焦点を当てるのではなく、同じ時代に生き、互いの思想や生き方に影響を与え合う人物群の核として置かれ、物語では虚実を交えて様々な人物が関わり合いを持つ。
読者は、立場や生業が違えども明治人の精神を持つ多彩な登場人物―真摯で自在な群像*―と、その思いがけない交流が生むドラマに立ち会う面白さに引き込まれるうちに、待ち受ける時代の大波の方へと日本が突き進み始めていたことに気づかされる。この大きな構えを持った『「坊っちゃん」の時代』５部作は、明治後半に迎える近代日本の転換点を見とおすという主題を関川夏央と谷口ジローとで10年に亘り描き上げた、真の意味で骨太な漫画作品。
読者が集中して読み進めることができる大きな理由は、細密に描かれた服装・着衣、店や家の中の事物、車輛に建造物を配した街並、地形をも伝える景観を通して明治時代が見事に再現され、数多い登場人物を正確な姿かたちでその中に的確に配置し、動きと表情のリアリティで導いてくれる谷口の画と構成の手腕にある。

＊第２部あとがき「『秋の舞姫』について」より

PRESS RELEASE SETABUN

描くひと　谷口ジロー展

広報写真

画像1　「坊っちゃん」の時代　©PAPIER

画像 2　Photo © Isabelle Franciosa

画像 3　神々の山嶺　©PAPIER

画像 4　ふらり。　©PAPIER

画像 5　ブランカ　©PAPIER

画像 6　『「坊っちゃん」の時代』第五部
『不機嫌亭漱石』双葉社刊　©PAPIER

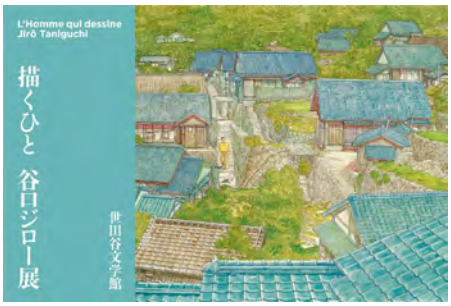
プロフィール

【谷口ジロー（1947〜2017）】アシスタント生活を経て1975年『遠い声』で第14回ビッグコミック賞佳作を受賞。以降、『犬を飼う』（第37回小学館漫画賞審査委員特別賞・1992）、『「坊っちゃん」の時代』（第22回日本漫画家協会賞優秀賞・1993、第2回手塚治虫文化賞マンガ大賞・1998）、『遥かな町へ』（第3回文化庁メディア芸術祭マンガ部門優秀賞・1999）、『父の暦』（アングレーム国際漫画フェスティバル審査員賞・2001）、『神々の山嶺』（第5回文化庁メディア芸術祭マンガ部門優秀賞・2001）など数々の賞を受賞。
2011年、フランス芸術文化勲章シュヴァリエ章を受章し、ルーヴル美術館やルイ・ヴィトン等との企画を手がけた。
近年では『孤独のグルメ』（2012）、『事件屋稼業』（2013）、『歩くひと』（2020）のテレビドラマ化とともに、海外では『遥かな町へ』（ドイツ・ベルギー・フランス・ルクセンブルク　2010）の映画化、『晴れゆく空』（フランス　2017）のテレビドラマ化、『神々の山嶺』（フランス・ルクセンブルク　2021）のアニメ化など、国内外問わず多数の映像化作品が公開されている。

PRESS RELEASE
SETABUN

描くひと　谷口ジロー展

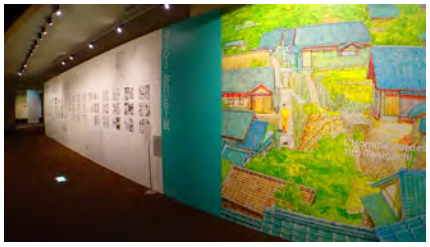
広報写真　　キービジュアル＆会場風景



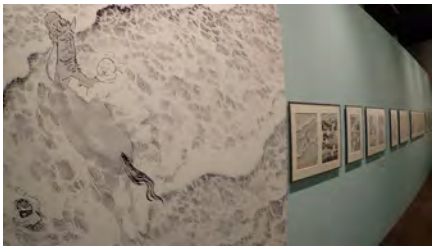
画像８（キービジュアル）

画像９（キービジュアル）

画像10（会場風景）


画像11（会場風景）

画像12（会場風景）


画像13（会場風景）

画像14（会場風景）

画像15（会場風景）

画像16（会場風景）

画像17（会場風景）

画像18（会場風景）

画像19（会場風景）

PRESS RELEASE
SETABUN

世田谷文学館　外観写真

概要　世田谷文学館開館25周年記念　セタブン大コレクション展　PART I

ふかくこの生を愛すべし

文学館が収集する資料は多岐にわたります。作家の自筆原稿や創作ノートや手紙、書画類から書籍や雑誌はもとより、ときには1枚の写真や新聞切抜、あるいはお菓子の空き箱や石ころのようなものまで資料として集めることもあります。それらの「モノ」たちの背景には、彼らが創作に携わった日々の想いや、家族や友人たちとの関係、社会や時代とのかかわり、気分転換の方法、そして生老病死と、さまざまなエピソードや歴史が秘められています。

世田谷文学館は昨年開館25周年を迎えました。この間収集した10万余点の資料の中から特色あるコレクションを「セタブン大コレクション展」として2シーズンにわたってご紹介してまいります。文学史上貴重な創作資料から作家の日常使いの品まで、コレクションが持つひとつひとつの「モノ」語りをひもとき、私たちの人生の諸相を映し出す確かな記録としてお届けいたします。

【展覧会名】　**セタブン大コレクション展　PART I　ふかくこの生を愛すべし**

【会　　期】　2021年10月16日(土)～2022年3月31日(木)　混雑時入場制限あり

ご来館の際は、事前に当館ホームページにて最新情報をご確認ください

【会　　場】　世田谷文学館　1階展示室

東京都世田谷区南烏山 1 - 10 - 10　℡ 03(5374)9111　https://www.setabun.or.jp/

【開館時間】　10:00～18:00（展覧会入場、ミュージアムショップの営業は17:30まで）

【料　　金】　一般 200（160）円／大学・高校生 150（120）円／65歳以上・小・中学生 100（80）円／障害者手帳をお持ちの方100（80）円（但、大学生以下は無料）

※企画展チケットで無料にてご覧いただけます

※（　　）内は団体割引と「せたがやアーツカード」割引料金

※10月22日（金）は65歳以上無料

【休 館 日】　毎週月曜日（但、月曜が祝日の場合は開館し、翌平日に休館）・臨時休館期間・年末年始（2021年12月29日～2022年1月3日）

【交通案内】　京王線「芦花公園」駅南口より徒歩5分

小田急線「千歳船橋」駅より京王バス（千歳烏山駅行）利用、「芦花恒春園」下車徒歩5分

【主　　催】　公益財団法人せたがや文化財団　世田谷文学館

【後　　援】　世田谷区、世田谷区教育委員会

【ご来館にあたってのお願い】

お客様に安心してご鑑賞いただくため、世田谷文学館は施設の換気や消毒、スタッフ全員の検温など感染症予防対策に取り組み開館しています。

- ●感染症対策のため、**混雑時は入場を制限**させていただきます。
- ●37.5℃以上の発熱がある方は入館をお断りします（入館時に検温させていただきます）。
- ●ご入場の際はマスクをご着用ください。
- ●過去２週間以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国・地域への訪問歴及び当該在住者との濃厚接触がある場合は、来館をお控えください。
- ●咳、咽頭痛等、風邪のような症状がある方、体調がすぐれない方はご来館をお控えください。
- ●感染症対策のため、お客様の個人情報を必要に応じて保健所等の公的機関に提供する場合がございます。
- ●クロークサービスはありません。大きなお荷物でのご入場はご遠慮ください（ベビーカー置き場はあり）。
- ●駐車場は利用台数が限られます。公共交通機関のご利用をお願いいたします。
- ●その他、注意事項の追加・更新がございますのでご来館前に必ず文学館HPをご確認ください

コレクション展　メインビジュアル

描くひと　谷口ジロー展
広報用画像借用書

世田谷文学館学芸部　広報担当 行

Eメール webmaster@setabun.net　FAX 03-5374-9120

展覧会広報用の画像をご用意しています。ご希望の際は下記利用条件をご確認のうえ、本紙データをファックスまたはＥメールにてご提出ください。なお、本展紹介記事をご掲載いただく際は、恐れ入りますが情報確認のため、校正紙をお送りいただきたく存じます。また、発行後、掲載誌を１部お送りください。

【広報用画像利用条件】

◆画像は展覧会紹介の目的のみにご使用ください。
◆画像のトリミング、画像に文字を重ねるレイアウトはお控えください。
◆画像データは、ご使用後必ず消去してください。また画像データを第三者に渡すことを禁じます。
◆インターネット上で掲載する場合には、画像をコピーできないよう処置し、会期終了後はＷＥＢサイトから必ず削除してください。

雑誌名・番組名・ＷＥＢサイト名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
媒体種別（〇印記載）：新聞　・雑誌　・フリーペーパー　・テレビ　・ラジオ　・ＷＥＢサイト
情報配信予定日：　　　年　　　月　　　日（〇印記載　発売・配信・その他　　　　）
御社名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
御担当者名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
御住所：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
メールアドレス：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
電話番号：＿＿＿＿＿＿　**ＦＡＸ番号：**＿＿＿＿＿＿

【画像利用の申請について】

利用希望の画像については、下記にチェック（レ）して申請してください。
赤字箇所はクレジット表記です

画像１ □　**「坊っちゃん」の時代　© PAPIER**
画像２ □　**© Isabelle Franciosa**
画像３ □　**神々の山嶺　© PAPIER**
画像４ □　**ふらり。　© PAPIER**
画像５ □　**ブランカ　© PAPIER**
画像６ □　**『「坊っちゃん」の時代』第五部　『不機嫌亭漱石』双葉社刊　© PAPIER**

コピーガードができない場合は、下記画像をご利用ください。

画像７ □（谷口ジロー展　メインビジュアル）　**画像８** □・**画像９** □（キービジュアル）
画像10□・**画像11** □・**画像12**□・**画像13** □・**画像14** □・**画像15** □（会場風景）
画像16□・**画像17** □・**画像18**□・**画像19** □（会場風景）

・・

□（外観写真）　□（コレクション展　メインビジュアル）